

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学

大学院 / 専攻科

村嶋幸代

(2024年9月30日作成)

1. 教育の責任

私は、湘南医療大学では、大学院と専攻科に所属し、各々で教育を担っています。博士課程では看護学領域に属し、「生活支援医療学特論」(必修、D1)の一部を担当し、ゼミナールを行っています。専攻科では、「公衆衛生看護学Ⅱ」(必修)と「公衆衛生看護学研究」の講義(必修)を担当するとともに、専攻科の学生達の研究指導として、研究計画の立案・研究倫理審査のための書類作成のアドバイス・研究の推進・論文作成に携わり、その過程で、種々の相談に応じています。また、時に、それ以外の講義を受け持ったり、他分野の教員からの求めに応じて、話題提供を行ったりしています。

他に、神奈川県保健師等と円滑な関係を築き、本学の専攻科公衆衛生看護学専攻の実習や研究が円滑にいくように心がけています。私の責務は、①大学院博士課程における教育と研究指導、②専攻科の教育を、より良い形で行い、学生達が保健師・助産師として確実に社会に巣立つようにすることだと考えています。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

「正攻法が一番早い」「正面から真摯に取り組む」が、私が日頃から心がけていることです。そして、「現在地よりも半歩前に進む」ことをモットーにしています。

看護職は専門職です。専門職として、自分たちの現在地を正しく評価し、問題点と課題を分析し、それによって手掛かりをつかんで積極的に前に進みます。人生のボールは、親から子へ、先輩から後輩へと引き継がれていきます。人生は、山あり谷ありです。そして、専門職の仕事にも、楽しい時も苦しい時もあります。苦しい時に、自分から逃げずに、正面から取り組むこと、が必要です。

教育の目的は、一人一人が自分の力を発揮できるように、地力をつけて、心を整え、専門性を活かして社会に貢献できるようになること、それとともに、自分自身の人生を歩いて自己実現していくことにあります。一人一人の学生は、個性も能力も違います。努力して専門性を身に着けるとともに、その人らしさを発揮して輝いてくれればと願っています。

2) 理念をもつに至った背景

学生には伸びる力が備わっている！これが、教員として50年近くを過ごしてきた私の実感です。自分で正面から取り組む学生に対しては、そのアイデアを誉め、一寸アドバイスしたり後ろから支えたりすることによって、自力で前に進みます。一方で、問題を回避して正面から取り組まない人は、なかなか解決策が見つからず、前に進むことができません。それによって、何時までも同じところに留まってしまいます。

私自身のことを考えても、正面から取り組んだ時の方が、結局、早くに解決し、次に進むことができました。

問題が生じたときの対処方法は、さまざまです。一時的に、その問題から離れることも、

もちろん、有りです。しかし、根本的な問題が解決しないと、結局は、何時までも苦しいだけです。大事なことは、問題に正面から向き合い、問題を分析して、取り組みの手掛かりを得ることです。色々な人に聞き、類似の事例を調べ、幾つかの方法を考えて、最も有効と考える手を打ちます。一方で、「時期尚早」ということはあり得ます。その時は、時期が熟すまで待つことです。でも、必ず、チャンスがきたら、全力で取り組むことにしています。

3. 教育の方法・戦略

「お喋りは研究の第一歩」だと考えています。日頃感じたこと、思うことを語り合い、その中から、研究の大事なシーズを見出します。「知的なおしゃべり」ができる雰囲気、環境を作ることが重要です。そのためには、①風通しの良い環境(教室・職場)作り、②フラットで言いたいことが言える環境づくり、③人の発言を尊重し、否定しないこと、一方で、鵜呑みにせず、反論もできること、が重要です。そのような環境づくりは、大学や組織の責任者の重要な役割だと考えています。

一方で、ゼミナールや文献抄読の会も重要です。フランクに話し合う雰囲気があれば、議論が進みます。

議論する際には、常に、「本質」に切り込むことを心がけます。枝葉末節に囚われることなく、本質を見据えることが重要です。そのためには、図式化することが重要です。時に、ベン図を用いて、議論を整理します。ベン図は、対象を構造化し、見える化する上で重要なツールです。また、研究のテーマを絞り込むうえでも重要です。

一緒におしゃべりや議論をすることを通して、学生さんの頭が整理され、構造化する方法論を身に着け、そして、次の一步を自ら歩きだすことができるようになります。そういう学生に伴走したいと考えています。

授業以外の諸活動は、保健師に関する事柄に、本務に支障のない範囲で取り組んでいます。例えば、厚生労働科学研究「自治体保健師の計画的・継続的確保に関する研究」では、全国の自治体と、特に、神奈川県保健師さんたちと一緒に、あり方を模索しています。その過程で、本学の専攻科の教育に関わることも出てくるので、正面から丁寧に取り組んでいきます。全体に、好循環が起こるように、波及効果も出るように取り組んでいきます。

4. 学習成果

私は、2024年4月から湘南医療大学に大学院教授として勤務し始めました。専攻科も兼担しています。ここでは、教育を始めたばかりです。しかし、前々任校の東京大学大学院医学系研究科では、博士を33人、修士を55人育てました。また、前任校の大分県立看護科学大学でも、数名の博士論文と修士論文(課題研究)を指導しました。

私の専門は、公衆衛生看護学・地域看護学、保健師の人材育成や地域包括ケアのシステム構築、訪問看護の評価等です。今までも、システム構築に幾つか関わってきました。これからも、機会を捕まえて、「現在地よりも半歩進む」をモットーに、学生や院生、専門職等と

一緒に、改善・改革を行っていきたいと思います。

5. 改善のための努力

改善には、「自分でできること」と「組織として取り組まなければならない事項」とがあります。

まず、「自分でできること」については、授業の準備に時間をかけ、エビデンス・ベーストの授業を心がけたい。2024年4月に本学に着任した前後と今まで、なかなか十分な時間が取れなかったが、今後は、時間を作って準備し、最新のエビデンスを盛り込んだ、わかりやすい授業を心がけたいと思います。

「組織として取り組まなければならない事項」については、各々の組織に歴史と風土があります。また、ポジションに寄っても、責任範囲と取り組めることが異なります。そのため、まずは、現時点で自分としてできることに着実に取り組んでいきたいと考えています。

6. 今後の目標

長期目標の一つは、本学の大学院博士課程の充実です。そのためには、博士への進学者を増やす努力をすること、その前提となる修士課程の院生を増やすことが重要でしょう。私立大学として、限界はあると思いますが、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

もう一つの長期目標は、「専攻科における保健師教育の充実と、その位置づけの確立」です。大学専攻科は、1年間で保健師国家試験受験資格を得ますが、学歴としてはアカデミアの中に位置づけられていないのが現在です。卒業生の将来、そして、日本の保健師とその恩恵を受ける国民のためにも、何らかの形で改善・改革していきたいと考えています。

短期目標は、目下、保健師不足が深刻であるため、その解消のために、毎年、キチンと輩出できるようにしていきたいと思います。

【添付資料】

無し。